

ダルニー通信

56

2009
冬号



タレントの向井亜紀さんと作家の立松和平さんの記事

- 「奨学生30万人目記念の集い」を開催しました(P3)
- 3月、カンボジア研修旅行をはじめて実施します(P7)



一般財団法人
国際センター

過去数十年で最大級の台風「ケツァーナ」が
9月末、東南アジアを直撃

ラオス南部とカンボジアでも 大きな被害

国際センターは、すでに皆様からいただいたラオス・プロジェクトへの
寄付のうち30万円を緊急支援に充てます

フィリピンとベトナムが洪水に見舞われ、数百人の死者を出した台風ケツァーナは、カンボジア北部のシェムリアップ地方に進んで数千世帯の家屋や家畜などに被害を及ぼした後、9月29日にラオス南部のセーコーン県とアタプー県を直撃しました（下地図）。政府の発表では、ラオスの死者は確認されているだけで24名。家屋の倒壊や農作物・家畜の流失などの被害も甚大で、セーコーン県のラマン郡だけで被害額は130億キップ（約1億5千万円）にも上ると予想されています。

国際センターのラオス事務局（EDF-Lao）からの報告によると、両県で多くの村が被害を受けましたが、特に以下の村の被害が甚大でした。

- パクトン村（128世帯）家屋流失15 家屋損傷85
- ケンルーン村（92世帯）家屋流失30 家屋損傷20
- パクプーン村（30世帯）家屋流失30 家屋損傷3
- ソンホーン村（44世帯）家屋流失30 家屋損傷14
- フエング村（58世帯）家屋流失46

UNDP（国連開発計画）、WFP（国連食糧計画）などが、すでに緊急支援を始めています。ラオスでは9月から新学期が始まり、生徒たちは学校に通っていますが、校舎や家が流失した場合、学用品も失ってしまったはず。国際センターでは奨学金支援対象県であるセーコーン県の村を対象に、緊急支援をいたしました。



台風ケツァーナ被害に対する支援内容

当センターが教育支援や保健衛生プロジェクトを行っているという特色を生かし、石鹸、タオル、蚊帳、筆記用具等の支給という形で支援いたしました。

支援額は30万円で、ラオス・プロジェクトへの寄付（Gタイプ）として皆さまからいただいたご寄付を活用させていただきました。

完了後の報告は後日この誌面でいたします。

「奨学生30万人記念の集い」が盛況のうち閉幕

作家の立松和平さんの講演、タレントの向井亜紀さんのお話に参加者が感動しました！

タイから来日した二人の現役奨学生も関東・関西の支援者と交流し、彼らの生活や家族について報告をしました
【関連記事】 p4、p5、p10

10月5日（月）、東京・新宿区の区民ホールに作家の立松和平さん、タレントの向井亜紀さんをゲストに迎えて開催した「奨学生30万人記念の集い」には、約300人の聴衆が参加しました。立松さんは、ご自身が支援する奨学生の少女とお母さんに会った印象や彼女たちが暮らす村に滞在して体験した異文化の話、向井亜紀さんはダルニー奨学金を支援するきっかけや支援の方法について家族で話したエピソードなどを話して下さり、舞台ではご自身が支援するタイの奨学生ベンジャマーポンさんと感激の対面をしました。このイベント以外に、ベンジャマーポンさんともう1人の奨学生ワッチャラコーンさんが、ドナーの方に支援のお礼と自らの生活を報告するため、関東や関西の学校や支援者の集まりに参加しました。本号では、立松さんと

のトークの中で語った向井さんの話（3ページ）、立松さんの講演（4ページ）、2人の奨学生の報告（5ページ）を要約しました。また、尼崎市でドナーの集まりを開催した尼崎ドナー連絡会世話人の仲本さんに感想を書いていただきました（10ページ）。



向井亜紀さんがダルニー奨学金をはじめたきっかけは…

「子どもを大切に思う気持ち、彼らの夢を応援する気持ちを、ダルニー奨学金であらわすことができると思いました」

「ダルニー奨学金」を初めて知ったのは、2002年の冬のことです。私は2000年に子宮がんを患いました。お腹の中に赤ちゃんが入っていたのですが、妊娠と同時に癌がわかって子宮を摘出する手術を受けました。その後、体調が回復するまで、いろいろな治療を受けてきましたが、その1つが針治療で、その治療院にダルニーのパンフレットが置いてあったんです。

そのパンフレットを読んで、この団体は何とまじめに報告書を書いているんだろうと感動しました。寄付がどのように現地の方々へ届けられて使われているか、なかなかこちら側に伝わってこないこともあるかと思うのですが、この団体はそうではないと感じました。2003年秋に代理出産で双子の男の子を授かることができたのですが、それまでの長い心の戦いの中で、ダルニー奨学金のように、「子どもを大切に思う気持ち、彼らの未来や夢を応援する気持ちを、こういう形であらわすことを忘れないようにしていこう」と考え、2003年春から支援を始めました。支援ができるとなると嬉しくて、最初はおこづかいをためて何十人もの子どもを支援しようと思っていたのですが、主人（元格闘家の高田延彦氏）と「ある年は100人分でも翌年はゼロというのではなくて、長く支援することに意味があるんじゃないか。そのうえで1人でも多くの方に支援をしてもらうことが大切じゃないか」と話し合いまして、私個人の支援以外に、彼が経営する高田道場にも募金箱を置いて、少しずつ支援し続けることにしたんです。





作家 立松和平氏が 「奨学生30万人日記念の集い」で講演

「ラオスの村に滞在中、村人が心をひとつにして僕たちに寄り添ってくれたことが、とても尊いことのように感じました」

写真（右最上）の対岸がラオスです。タイを出国してメコン川を舟で渡ってラオスに入国しました。普通、先進国のパスポート検査は大変です。外国人にとって日本の入国は本当に大変ですよ。でもラオスは入国カードに名前やパスポート番号などを書いてパスポートにボンとハンコを押してくれます。疑われもしない。

国道と赤土の1本道を車で1時間ぐらい走ると、その先に宿泊するハドシェンデー村がありました。道の両側に教育委員の方、村長さん、前村長さん、校長先生や先生、それから大勢の子どもたちがニコニコしながら日の丸とラオスの国旗を振って迎えてくれました。これまで民際センターが彼らに善行を施してきたから大歓迎をしてくれるわけです。良い因果です。僕はドナーになったばかりなので、この大歓迎の中を歩く資格はない、歩くのが気恥ずかしかったのですが、そのわりに写真を撮るため先頭を歩いていました（笑）。

次は村の真ん中にあるお寺の集会場です。朝、お坊さんにお布施をします。以前、スリランカの村を訪ねたことがあります。その村に津波が2回襲った時、村人はお寺に走って助けを求めたそうです。お寺が避難所になりました。お坊さんも食べ物を集めて村人に配ったそうです。仏教が村人の支えになっています。ラオスもそうだと思います。生活の隅々に仏教の教えが入っている。僕は生活にはゆるやかな、スローな宗教心が必要だと思っています。

次の写真は縁を結ぶ儀式です。村の人が「あなたが幸せでありますように」とか「良い旅ができますように」とか祈りながら両腕に白い糸を巻いてくれます。住人がこぞって私の幸せを祈ってくれるなんて普通はないですよ。良い習慣だと思いました。次から次へと女性がやってきて、こんなに女性に囲まれたのは生まれて初めてです。おばあちゃんから子どもまでなんですけど（笑）。終わりの頃には両腕が真っ白になって、怪我して包帯を巻いたみたいになりました。とても幸せな気分になりました。

次はこの村に建設中の校舎です。小学校の古い校舎には窓が1枚もはまってなくて、壁や教室を分ける板も崩れていました。新校舎はゆっくりと完成に向かっていきます。子どもたちも毎日、それを見ながら学校に通っています。

次は、僕がドナーになった奨学生のソンサワンとお母さんです。手をにぎりあっていますが、別に選挙に出ようとしているわけではないです（笑）。ソンサワンは中学、高校を出て中学校の先生になりたい、尊敬するのは先生ですと言っていました。32歳のお母さんは「私たちは助け合って生きています。お米を作っていますが、2か月分足りません。でも出稼ぎには行きません。足りない分は親せきから借りたりして何とか生活しています」と言っていました。それから単独で電気を引くと高いので、月100円で親せきから一本電線を引かせてもらっていました。彼らは経済的には貧しいかもしれませんが、家族が助け合って生きているのを見て、彼らは決して貧しくないと思いました。

僕はこの子のドナーとして3年間、奨学金を提供しますが、提供したからといってエライなんて思わない。受けた側もへつらわない。対等の関係です。僕たちの滞在中、村の人たちが気持ちをひとつにして僕たちに寄り添ってくれたことが、とても尊いことのように感じました。



先生になって、家族の生活向上や村・国の発展に役立ちたい

私の名前はベンジャマー・ポン・サイトンサティットです。13歳で中学1年です。ヤソートン県にある中学校に通っています。3人姉妹の次女です。家族は全部で7人ですが、父は亡くなり、母が唯一の働き手で、日雇い労働者として働いていますが、十分な収入はなく、家族の



生活は苦しいです。私は週末に先生の自宅を掃除する仕事をさせてもらい、わずかながらお金(週約600円)を稼いでいます。もちろん一生懸命勉強し、また、できるだけ家事をして母を助けています。

私は将来、先生になりたいと思っています。見返りを求めずに知識を授けて人間の能力を向上させる先生という仕事に興味を覚えるからです。私は一人の例外もなく子どもたちが教育を受けられれば良いと思います。そして、仕事をして家族の生活が向上できればいいなと思っています。さらに、村人にも知識を提供して、彼らの生活の向上や国の発展にも役立ちたいと思います。

今年から奨学金を受け取りました。奨学生になることができ嬉しです。奨学生として一生懸命勉強し、自分の能力を高めたいと思います。

家族の生活が苦しい中、奨学金は良い生活に通じる一筋の道

ボクの名前はワッチャラー・コーン・ソーンシィです。ルーイ県にある中学校の2年生です。ボクが小学校1年の時、両親は離婚し、ボクは現在、父の祖父母の家で、妹は母の祖父母の家で暮らしています。というのも、父も母もそれぞれ新しい家族と暮らしていて、私たちの生活まで面倒を見る余裕がないからです。



ボクの家族は祖父母、ボクより年下の2人のいとこの5人ですが、とても貧しいです。父は定期的に約3,000円のお金を送ってきますが、5人家族の生活には十分ではありません。祖父母は農作業の日雇い労働者ですが、どちらも大した収入にはなりません。ボクも雨期の週末に農作業をして、1日150円を稼いで家計に入れていきます。また、食べるものを探しに森に入ったり、魚を取ったりします。こんな生活ですから、奨学金をもらって家計が大変助かっています。奨学金は、良い生活に通じる道筋のように感じます。

ボクは将来、兵士になりたいです。それから、村の発展に役立つ人間になりたいです。村人たちを助けて、彼らが自分に誇りをもてるような収入と生活が得られるような村にしたいです。

書き損じはがきやインクカートリッジ等を集めて奨学金を提供している3つの中学校を訪問して報告会を開催し、生徒と交流しました

大阪市の高槻市立五領中、愛知県の犬山市立犬山中、神奈川県横浜市立小山台中

ベンジャマー・ポンさんは五領中学、ワッチャラー・コンさんは小山台中学と犬山中学を訪問し、それぞれビデオを見てもらうなどして彼らの学校や家庭生活について報告し、感謝の言葉とともに支援の継続を訴えました。また、英語の授業に参加したり、給食をいただいたりして、生徒との交流も深めました。



五領中学



犬山中学

裸足で水を運ぶ少女、「自分の靴は持っていません」

小学校3年のイアム・プンの家の手前で、彼女の写真を撮っていると、近所の子どもたちがデジカメをのぞき、不思議そうな、でも楽しげな表情で「プンだ、プンが写っている」と言いました。彼らがデジカメを見たのは多分初めてでしょう。ここはカンボジアの首都プノンペンから91キロ北にあるコンボンチュナン県のある村です。

彼らの笑みからは、彼らの生活は想像できないかもしれません。プンの家の壁は隙間だらけの木と葉でできていて、寒い日には冷たい風が入ってくるはずですが、火をおこす場所はありませんが、台所は見当たりません。この家には部屋が1つしかないからです。

両親の仕事は農業。数カ月分のお米がありますが、次の収穫まで間に合うかどうか。足りなくなったら、近所から借りることになります。ご飯は、お米以外ほとんど何も食べてない様子です。家庭の年収は現金に換算すると24,000円ぐらいです。

家から100メートルのところに井戸があり、プンは毎日水を運びます。それだけではなく、お母さんを手伝って幼い妹の世話も料理も掃除も洗濯も動物のえさやりもすべてします。私たちが訪ねた日、彼女は制服を着ていましたが、裸足でした。「自分の靴は持ってない」のだそうです。栄養不足と劣悪な衛生環境ゆえ彼女は最近、2度も腸チフスにかかりました。

カンボジアは人口の40%が貧困ライン以下です。貧困家庭の女の子は、家族を養うためにプノンペンで性産業に従事することが少なくありません。そしてもう1つ、彼女たちが陥る可能性が高いのが麻薬です。厳しい現実から逃れるためです。しかし、しっかりした教育を受けることができれば、自分の力で将来を切り開いていくことができるかもしれません。



協力団体の紹介

子どもたちの真心を世界へ、 ダルニー奨学金を支援

御殿場市 野木美津子

平成16年、茶道の精神が心に染みこむようにとの思いから、宗沁会を立ち上げました。そして平成18年、子ども達に「もう一服いかがですか」という思いやりの心、「お先に」という尊敬する心、「お点前頂戴いたします」という感謝の心、お点前が終わるまで座って我慢する心、などを身に付けて欲しいと子ども教室を始めました。平成19年には、茶道を通して子ども達が社会参加でき、またその成長を皆様に見て頂く方法はないものかと考え、熟慮の末に子ども達の真心を世界に繋げたいと第一回目のチャリティ茶会を開催致しました。外国の子ども達を支援するというところで、一部の人にどうして国内にそのお金を出さないのかと言われましたが、自分達の活動が海を越えて同世代の誰かの役に立っている、その経験は子ども達が将来世界と向き合った時きつと役に立つと信じております。

平成20年の茶会ではご縁がありましてラオスの子ども達のため、地域の方々のお気持ちを頂き、6名の児童に奨学金を差し上げることができました。今年も賛同してくださる大勢の方々に支えられ無事お茶会を終わらせることができました。

昨年支援した子ども達をそのまま中学に送り出したいと思いい、あと二年、「皆で健康」を挨拶に活動を続けて行きたいと思っております。



カンボジアツアー、初実施です!!

◆ 実施要領 (予定)

● 日程：2010年3月1日～6日

● 訪問地：プノンペン、コンポンチュナン県

● 参加費：20万～25万円程度を予定

【含まれるもの】成田空港からの往復航空券、団体行動時の全交通費・宿泊費・食費、保険料、海外旅行保険

【含まれていないもの】航空券付帯する空港使用料、航空保安料、燃油特別付加運賃、個人的な経費、自宅から成田までの交通費

※現地で合流するコースもございます。お問い合わせ下さい。



予定スケジュール

日	内容	宿泊
3/1	午前:成田→バンコク 午後:バンコク→プノンペン	ホテル泊
3/2	プノンペン→コンポンチュナン県 学校訪問	民泊
3/3	文化体験、奨学生宅訪問	民泊
3/4	午前:生徒達と交流 午後:プノンペン市内観光	ホテル泊
3/5	プノンペン郊外または、 アンコールワット観光(オプション) 夕方:プノンペン→バンコク 深夜:バンコク発	機内泊
3/6	朝:成田着	

【上記スケジュールは変更になる場合がございます】

◆ 資料請求

興味がある方、参加をご希望される方は下記の方法で資料をご請求下さい。

【郵便】ご自身の宛名を明記し、80円切手を貼った封筒を同封の上、事務局までご請求下さい。

【電子メール】info@minsai.orgまでご請求下さい。資料はメールの添付ファイル(PDF形式)で送信します。資料請求の締切は1月20日です。

ラオスの教育の質向上に向けた地道ながら着実なプロジェクト

ラオス人教師のタイ大学院留学制度 (TTM事業) ご支援のお願い

ダルニー奨学金は教育の「量」の拡充が目的ですが、TTM事業は教育の「質」の充実が目的です。ラオスの全教師が教師養成校を卒業するには膨大な時間とお金が必要ですが、もし理解しやすく充実した教師用指導書ができ、それに沿った授業が全国で実践されれば、ラオスでも標準化された教育の質の確保が可能となります。しかし実態は指導書を専門に作成できる人材がないのがラオスの教育事情であり、そのような人材を育成し確保するのがTTM事業です。これまで16名の人材の蓄積が進み、本年9月の教育省との合同会議では指導書整備に向けて「教育学会」を設立する道筋ができました。ラオスの教科書、指導書作成に関わるすべての教育機関及び元タイ教育省事務次官らも会議に参加して踏込んだ協議が行われました。学会設立後には、TTMで留学した卒業生たちが教育の専門員として加わり指導書の整備を担うこととなります。

緊急の
お願い

ラオス人教師 修士留学事業にご支援を!

ラオス全土の中高教員を対象にした公募に対し、大学院進学レベルの教師たちからすでに多くの応募があり、選考過程に入っています。タイのコーンケン大学大学院への奨学金(授業料・寮費・食費等)は年額75万円で、修士号取得まで3年間が必要です。資料ご請求の締切りを延長し、2010年1月末日とさせていただきます。資料のご請求は事務局(担当:横山)まで。

奨学生の証書を入れる木製の額縁はいかがですか？



支援企業のラーソン・ジュール・ニッポンが
手ごろな値段で額縁を販売します

2002年以来タイ・ラオスの奨学生を支援していただいている世界的な額縁専門商社ラーソン・ジュール・ニッポン株式会社では、奨学生の証書を入れる木製の額縁をお手ごろな価格で販売することになりました。売上金の一部は同社のご厚意により、ダルニー奨学金に充てていただきます。ご購入いただいた方には別途、額縁の使用に合わせた証書をお送りします。

証書を額縁に入れて、お部屋に飾ってみませんか？

【仕様】 A4サイズ、オーク材

【価格】 2,370円（税抜き・送料別）

【申込先】 03-5292-3260 info@minsai.org（担当：関口）



ダルニー奨学金の広告が1年間、静岡を快走

2006年度に続き、ダルニー奨学金を支援する設計事務所
の支援により、ダルニー奨学金の広告（写真）が今年7月31日から静岡鉄道のバスの後部（外側）に掲載されています。期間は1年間。今回はみなみ線、石田街道線、三和大谷線の3線です。この区間には、登呂遺跡や静岡大学などがあるそうです。

海外事務所のスタッフ

農村部の子どもたちが自分の力で生活を改善する力を育てたい

私はカムヒアン・インタヴァです。1970年にラオスの首都ビエンチャンで生まれました。物心ついた時は内戦が終わっていて、私は幸運でした。平和だったからこそ、小学校から大学まで教育を受けることができたのです。ビエンチャンの大学では医学を学び、卒業後は総合病院の事務局で10年間働きました。そして、日本政府から奨学金を得て、新潟県にある国際大学で経営学を学び、修士号をとりました。それ以外にも、2年間の日本滞在は私の視野を広げる上で貴重な体験でした。

新潟国際大学卒業後、民際センターのラオス事務局で働く決心をしました。教育支援を行っているこの組織の活動に大いに惹きつけられたからです。ラオスは都市部こそ徐々に発展していますが、人口の大部分が住む農村部は発展から取り残され、彼らの生活には様々な困難が伴っています。しかし、彼らには生活を改善する知識がありません。そして都市部との収入の格差は広がる一方です。こうした社会問題を認識したこと、それに私自身が教育を受けて成長したことを踏まえて、今度は私が何かをしたいと思いました。日本からの寄付を受け、農村部の子どもたちが教育を受けられるように、私の知識と経験を活かしたいと思ったのです。彼らがしっかりした教育を受ければ、自分の力で生活を改善できるようになると信じています。その時まで、ぜひ日本の皆さんのご支援をお願いします。



ラオス事務局事務局長
カムヒアン・インタヴァ

タイに赴任中、日系企業に積極的にダルニー奨学金を紹介。 それは「魚より釣竿」の教育支援が、子どもの夢をかなえと思ったから

Q1. タイとのかかわりは? また、ダルニー奨学金を支援しようとしたきっかけは?

1991年にタイ国に工場を建設し赴任したのがタイ国とのかかわりの始まりです。アユタヤ県の日系企業の集まりで「タイ国内に対する社会福祉活動を行う」ことになり、読売新聞で紹介されていたダルニー奨学金の理念に賛同し支援することにしました。「奨学金を受ける子どもの顔が見える支援」が企業会でも評価され、たくさんの賛同者を得ることができました。

Q2. その後もタイに赴任中、ダルニー奨学金を日系企業にたくさん宣伝していただきました。

この支援がきっかけで、タイの事務局(EDF)とも交流ができ、チャリティーゴルフ会の主催や、EDFのタイ国内における活動を支援しました。日系進出企業の代表者に対する紹介など、日系企業へのダルニー奨学金の紹介をタイ国内で行いました。日本語や英語が話せるEDFスタッフが個別にアプローチしても、アポを取るだけでも難しいですからね!

Q3. 01年からずっと支援していますが、支援を継続している理由は?

やはり、支援している奨学生の顔が見えるということでしょうか。また、工場を運営している中で従業員の質がとても重要であり、教育のレベルでこの質にばらつきがあることが経験的に分かっていました。従業員との交流の中で東北地方の状況も把握できました。「魚より釣りざお」の教育支援が子どもたちの将来の夢をかなえることができると思ったからです。

Q4. 現在は個人ではなく連絡会を通じて支援をしています。連絡会を作ろうと思った理由は? また、連絡会として、どのような活動をしていますか?

どうせやるなら楽しくやろう…という思いから、日本に帰国後、佐久市内で「佐久平ダルニー奨学金」を

立ち上げました。今は15名ほどのメンバーで活動しています。活動内容は、中学校、自治体の育成会、ボランティア団体の研修会、商工会議所、ライオンズクラブ等で国際交流の事例としてダルニー奨学金を紹介しています。佐久市内の国際交流事業への支援や、佐久市内の外国人の生活支援や花見等の交流を行っています。

Q5. 依頼を受けて学校や団体に出かけて、タイ東北地方の子どもの状況とダルニー奨学金について説明されていますが、そのようなことに時間を惜しまないのはなぜですか?

やっつけて楽しいからでしょうか。自分が経験したことを他人に伝えるのは楽しいことですし、誤った理解が無くなることで、お互いの文化を知り国際貢献につながります。

Q6. タイは経済発展をして今や中進国になりました。しかし、まだ貧しい子が大勢います。タイに滞在された経験から、その理由はなぜだと思いますか?

タイ国には7年滞在しました。確かにタイ国は経済的に発展しましたが、発展が著しいのはバンコック周辺です。東北地方などは企業の進出はまだまだで、発展途上にあります。中学を卒業しても周辺には勤め先が無く、バンコック周辺に出稼ぎに出ている状況は変わっていません。農業収入だけでは生活ができず、両親が観光地やバンコック周辺の都市に出稼ぎに行っています。奨学証書に添付されているプロフィールを見ても分かると思います。タイ国に進出している外国企業は小卒では採用しません。少なくとも中学卒業でないと適正な労働環境や労働条件で働く事は難しいです。こうした事情から、勉強したいという気持ちを持つ子どもたちの未来のために、まだまだ奨学金の提供は必要ですね。

【柳澤光一氏プロフィール】

昨年、定年退職し、趣味の家庭菜園を楽しんでいる。
動物好きで、ペットの子犬2匹との散歩で15,000~20,000歩を日課としている。
犬にとってはいい迷惑か! ヤギかポニーをペットにするのが夢。



●**尼崎ドナー連絡会**：9月30日（水）、来日した現役奨学生のベンジャマーポンさんとともに日・タイ両事務局職員が兵庫県尼崎市を訪問し、尼崎ドナー連絡会（世話人：仲本恵美子さん）のご協力のもと、ダルニー奨学金報告会を開きました（写真右上）。通訳として関西のラジオ等でご活躍の松尾カナタさんがボランティアで来てくださいました。

【**仲本さんのコメント**】奨学生30万人達成おめでとうございます。そのような時に尼崎ダルニー連絡会でタイ奨学生の報告会を開催できたことはとても喜ばしいことです。当日は雨降りでしたが、阪神間のドナーの方々67名も集っていただきました。奨学生やスタッフのタイ奨学金支援の現状報告の後、たくさんの質問がありました。皆さん、とても関心を持って聞いてくださっていましたので、今後の支援活動につながるような質問ばかりでした。普段は個々に活動しているドナーの方が集って輪になる機会を持つことが出来ました。楽しかったです。



●**ぷらいさに〜**：第6回バザーを10月24日から9日間開催。今年もホテルポールスター様のご厚意で会場を無料でお借りし、ドナーの皆さんには販売当番や手作り品の協力をいただきました（写真右下）。初日から1人分の奨学金を超える売上でスタート、今回も大盛況に終わりました。会場の都合もあり、来年度は未定ですが、開催が決定しましたらまた近隣ドナーの皆様にはご協力をお願いします。バザーの様子は以下のブログでご覧いただけます。（山本夏江）

<http://praisanii.kaze-iro.com/>



新潟で開催された第9回全国ダルニー連絡会会議「柳香都（ロイカートン）会議2009」

和気あいあいの中に、 真剣で活発な意見交換や活動報告などを行いました

新潟ドナー連絡会（世話人 赤石隆夫さん）主催の第9回全国ダルニー連絡会会議が10月31日午後、11月1日午前の2日間、新潟市内で開催され、盛況のうちに閉会しました。

県内女子高校生が受付嬢を申し出てくれた初日の会議では、民際センター理事長の秋尾が、新潟在住タイ人女性の手によるカービング作品を前に、現在の実施事業や民際センターの将来像などについて話し、事務局スタッフによる奨学金の傾向及びラオス校舎建設事業について、続いて佐久平ドナー連絡会世話人の柳沢さんと遠州ドナー連絡会世話人の畑さんの活動が報告されました。参加者全員の自己紹介を挟んだ質疑応答では「全体的な募金活動計画の中でのドナー連絡会の位置づけ」「奨学金数の減少のなか拡大している事業数と資金について」などの質問や意見、「去年タイに行ったら、奨学生と同年齢の子がレストランで働いていた。奨学金は必要」などの感想も出ました。

タイ古式舞踊に魅せられた夕刻からの懇親会では、ラオスでの校舎建設プロジェクト（LSP）に取り組んでいる新潟県内の学生有志による活動内容と苦戦の現状について報告に、「この場で募金を」と声が集まり、何と約5万円もの寄付が集まりました。

1日午前には新潟市内で奨学金募金を呼びかけているPC学習仲間、ギャラリー茶房の活動に続きLPSの大学生たちの活動履歴の発表が行われ、最後にチャリティー音楽活動を行う2人の女性演奏家による自作「流るるメコン」など3曲が披露され、再会を誓いつつタイ料理を味わい散会しました。



トピックス

タイ王国政府公認「タイフード・マーケット」は、本場タイの味を日本の食卓にお届けしております。政府公認レストラン「ゲウチャイ」のP.K.サイアム社が提供するWEB通信サイトで購入できます。この度、販売するタイフード・ボックスをご購入いただきますと、売り上げの一部をダルニー奨学金に寄付していただくことになりました。

タイ政府公認レストラン「ゲウチャイ」の
P.K.サイアム社が提供するWEB通販サイト

Thai Food Market

— タイフード・マーケット —

本場タイの味を日本の食卓に。

ダルニー奨学金 外資系

タイフード・ボックス

タイ政府公認のタイフードマーケットが、
タイフード・ボックス＜ダルニー奨学金対象セット＞の
売上の一部をダルニー奨学金に寄付させていただきます。

➡ダルニー奨学金セット、オリジナルBOXでお届け!!

タイの子供にも教育も
education for all!

**タイ産
フレッシュ・マンゴー**

—1万セット販売中—
某テレビ番組でも大好評!!



Whole Keawjai

タイ政府公認レストラン
「ゲウチャイ」の味を
ご自宅へお届け!!



多くはリゾート
タイスイーツ
&
フルーツジュース

ココアアップル
カスタード
ハイアット
シナモン
クワイ
ココ



タイ料理の食材 タイ産マンゴーの通信販売!

タイフードマーケット 検索

今すぐアクセス!!

あなたの携帯電話からも
タイフード・マーケットの
商品が購入可能!



<http://thaifoodmarket.jp/m>

※サイトの運営は株式会社P.K.サイアム社が担当しております。

カレーやラーメン、ジュース、ナンプラー等々詰め合わせにいた、
五千円のタイフード・ボックスをの買い求めいただくこと、
その売上金の一部がダルニー奨学金になります

事務局活用 リスト

事務局ではさまざまな資料やサービスを用意して、ドナーの皆様のお問い合わせやご要望にお応えしています。ご利用につきましては、下のとおり必要なものを同封の上ご請求ください。

● 地域で奨学金を広める活動をしたい ●

- ① 書き損じはがき・未使用テレカの収集
- ② 使用済みインクカートリッジの収集
- ③ パンフレットまたはリーフレットの設置
- ④ 不要な本を集めて送る
- ⑤ 募金箱を設置したい

①～⑤：80円切手を貼った返信用の封筒をお送りください。折り返し、該当する資料を送付します。②はポスター、⑤は申込用紙も同封します。①、④はメールでもお問い合わせできます。①については、箱に貼るエコ型はがき・テレカ収集箱作成セットも用意しておりますので、ご希望の方は枚数をお知らせください。

● 奨学生や現地のビデオを見たい ●

広報ビデオ(13分)やNHKで放映された番組「元奨学生感謝の来日」(20分)など。また、パネルを貸し出すこともできます。(送料実費)

● 個人でタイを訪問し、 奨学生に会いたい ●

80円切手を貼った返信用の封筒をお送りください(メール可)。折り返し、資料をお送りします(3～5月と10月、学校はお休みです)。

● 奨学金の説明を聞きたい ●

事務局では毎月第2水曜日(12:30～)と第3火曜日(17:00～)に無料説明会を行っています。参加希望の方は必ずご予約ください。

● タイの奨学生と文通したい ●

- ① 手紙の翻訳
- ② タイの切手購入

①：タイ語→日本語に翻訳します。手紙の原本と80円切手4枚を同封して送ってください。
②：タイ切手セット(12回分1000円)の代金は郵便定額小為替か現金でお願いします。80円切手を貼った返信用の封筒も同封してください。
※奨学生の氏名をカタカナで読みたい方は、電話、メール、ファックスでお問い合わせ下さい。

● 事務局でボランティアをしたい ●

PC入力、DTP・WEB制作の経験者、事務作業など。電話で担当、関口までお問い合わせください。

● 毎年忘れずに送金したい ●

お申し込みいただければ、自動振込用紙(ゆうちょ銀行)を無料で送付します(タイのみ)。

編集後記：今回は今年10月に入社した二人の男性新人職員を紹介します。●ファンドレイジングを担当することとなりました長千佳史(ちょうちかし)です。これまで、企業に対しブランド戦略、企業広報、投資家向け広報およびプロモーションにおけるコンサル・企画立案・実施のお手伝いしてきました。NGOにおけるファンドレイジングについては初めての体験となりますが、これまでの経験が生かせればと考えています。私たちの仕事は子どもの明るい未来を支援することです。したがって、それを支援する私たちが、未来を信じ、毎日楽しく取り組んでいくことがまずなにより必要だと思います。どうぞよろしくお願いいたします。●はじめまして。山本禅奈(やまもとぜんな)です。私の所属する社会貢献部は、主にファンドレイジングを行います。ファンドレイジングとは、基本的には資金調達という意味ですが、単なる資金調達ではなく、人々の理解を得、共感を呼び覚まし、募金や寄付といったアクションを通じて、私たちの活動に参加をして頂くという重要な目的があります。ファンドレイジング元年の今年、これからのNPO、NGOの在り方を模索しながら、さらに質の良い支援を提供出来るよう邁進していきます！それには、皆さまのご協力が必要不可欠です。どうぞよろしくお願いいたします。



一般財団法人
民際センター

ダルニー通信 第56号 2009年12月1日発行 発行人：秋尾晃正
一般財団法人民際センター 〒162-0041 東京都新宿区早稲田鶴巻町518 司ビル301号
TEL: 03-5292-3260 FAX: 03-5292-3510
Eメール：info@minsai.org ホームページ：http://www.minsai.org/
振替口座：00150-0-57664
表紙：ラオス カムアン県 撮影 関口 愛樹

— 紙面レイアウト協力 —

吉田シャショク 福岡県大牟田市小浜町1-5-17 ☎0944-51-8604